



松尾委員

・議論の順番としては、まず、すぐに取りかかっていたいかなければいけないハードメニューの整備について優先的に行い、次にソフトメニューあるいは関係部局との連携をどういうふうに具体的に進めていくかに関して議論をして、流域委員会としての提言をまとめていくというようなことではないかと思えます。



原田委員

・整備計画を緊急的に行うことはわかるので、第一に作ることは賛成ですが、流域委員会として河道の整備、河川そのもののハード的な整備だけでは不十分だと思います。治水というものが河道整備にすりかわるのが恐ろしいことで、一段落したら委員会でもそういう流域の問題をを扱って頂きたいと思えます。



辻本委員長

・河川行政だけでなく、環境行政、農水など、様々なところを巻き込んで、河川管理者がイニシアチブをとって行うことは非常に重要であることはこの会で十分認識できています。先のことはわかりませんが、法的な枠組みが決められている河川整備計画の議論が終われば、そういうこともぜひ考えていきたいし、土岐川庄内川はそれを考えるに十分にたる流域であることは認識されていると思えます。



内田委員

・減災メニュー（案）の取り扱い方について、特に整備水準を超えた場合と限らず、平常から行えばよいので「整備水準を超えた場合」という文言を外し、河川整備計画にもこういうソフト的なことも一生懸命やりますよという感じで書いて頂ければと思います。



辻本委員長

・議論が不十分でしたが、整備計画の目標と整備メニュー（案）については、上流で約1/30、下流で約1/100それから矢田川では東海豪雨を目指して施設で安全度を確保すると同時に、下流側に負担とならないようにできるだけ上流側の疎通能力を上げるような工事はせず、漏れるところを少し堤防で手当てするような形で行う。そして、できるだけ新川に迷惑をかけないように河道整備し、新川の整備計画レベルではゼロ分派を確保する方針で計画が立てられました。

・メニュー（案）については、持ち帰って見て頂き、各地先でどんなメニューがあるかをチェック頂くとともに、施設以外のところについてのまとめ方を少し再整理して頂きたいと思えます。

## 次回の予定について

今回は、「河川整備計画（利水、環境、人との関わり）の目標・メニュー（案）について」等を議題とする予定です。

## 編集後記

土岐川・庄内川の河川整備基本方針が策定されたのを受け、基本方針と治水に関する整備計画の目標・整備メニューの説明に対する質疑応答が活発に行われ、いよいよ委員会での議論も佳境に入ってきた感じがした。整備計画の中に、河川事業として直接には実施が困難な流域対策やソフト対策をどのように位置付け盛り込んでいくかなど、今後の議論を進める上での論点が浮かび上がり、整備計画の議論がより充実したものになっていく予感を抱いた。  
(副委員長 松尾 直規)

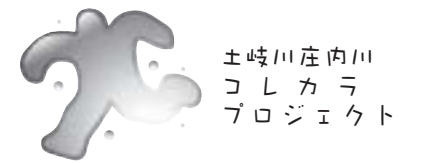


# 土岐川庄内川 流域委員会通信

VOL. 8

監修/土岐川庄内川流域委員会  
発行/土岐川庄内川流域委員会事務局  
国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所  
462-0052 名古屋市中区福徳町5-52 TEL 052-914-6711  
フリーダイヤル 0120-4071-41  
ホームページ ● <http://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>  
メールアドレス ● [shonai@cbr.mlit.go.jp](mailto:shonai@cbr.mlit.go.jp)

# 土岐川庄内川 流域委員会通信



土岐川庄内川  
コシカラ  
プロジェクト

VOL. 8

発行：平成18年3月

土岐川庄内川流域委員会の議事内容と、関連情報をお知らせしていきます。

## 第9回 土岐川庄内川流域委員会が開催されました

開催日時

平成18年1月17日(火) 13:30~17:00

会場

名古屋通信会館 3F桐楓の間

## ◇第9回土岐川庄内川流域委員会審議内容

### ○庄内川水系河川整備基本方針について

平成17年11月策定された庄内川水系河川整備基本方針について報告しました。その中で、河川整備の計画のあり方などについて、次のような意見をいただきました。

・上流域の森が、ゴルフ場、産廃の処分場や住宅などによって減少し、昔より悪くなっているのは間違いのない事実で、流域の保水力をどうするのかということは、基本を考えた時に議論をすべきポイントだと思います。



辻委員



阿部委員

・目標の流量が具体的には毎秒何トンという話になると、頭の中でイメージが全然できませんが、プロの方がそういう数字と考え方に基づいて提示することは大事なことから、それはそれで構わないと思います。問題はプロの方から素人の方になく話をどこか一言でも入れてもらうとわかりやすいと思います。

・流域の保水力の保全是、あくまで見込まなくても安全に洪水を流下させる計画を作ることがまず前提にあり、それらはプラスαとして行っていくのだと思います。ただ、整備計画の段階で、流域全体で考えた時に重要だという議論を深め、それを河川として実際事業としてはできないと思いますが、一つの目標としてやっていくという議論をしてもよいと思います。



松尾委員



原田委員

・流域委員会の中で流域の山や流域対策などについて十分議論されていません。支川は支川の管轄があり、愛知県、岐阜県からその辺りの河道と支川の流域についてどう捉えているかの話を聞く機会を1、2回設けて頂くか、資料を提出して頂きたいと思えます。

・今後、新しい知見も多分出てくるし、様々な自然現象について真摯に取り組んでいかなければいけません。それは一歩一歩のことで、局所的な現象がすべてを支配しているわけではありません。一方で、できるだけ早く計画を立て、その計画の中の枠組みで整備をしていかないと安全性が確保できませんので、プラスαで見なければよいと思えます。



辻本委員長